

図書館における公民連携

ー全国の事例から

信州発・これからの図書館フォーラム第16弾 in 小諸「“わたしたちの図書館”をめざして」
第1回「今だからこそ、図書館運営のあり方を考えよう
ー全国の事例を知り、ジブンゴトに置きかえてみるー」

2018年6月10日（日）

於・小諸市市民交流センター

岡本真

（アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役/プロデューサー）



自己紹介

ー岡本真とアカデミック・リソース・ガイド株式会社

学問を生かす社会へ

自己紹介

ー現在を見渡す

1. アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役（2009年～）
2. オーマ株式会社 代表取締役（20011年～）
3. saveMLAKプロジェクト プロジェクトリーダー（2011年～）
4. 図書館総合展運営委員会 運営委員（2008年～）
5. NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ 理事（2010年～）
6. 一般社団法人減災ラボ 理事（2017年～）

その他、国立情報学研究所（NII研究員）、早稲田大学客員研究員、
東京大学松尾豊研究室協力研究員等を兼任

自己紹介

ー過去をふりかえる

▶ 1973年生まれ

- ▶ 44歳
- ▶ 国際基督教大学（ICU）卒業（1997年）
- ▶ 日本政治思想史を専攻

思い出深い小諸
上野発・小諸着の「あさま」
母の出身地は望月

▶ 教育雑誌、学術書等の編集者等を経て、

▶ 1999年～2009年、ヤフー株式会社に在籍

- ▶ Yahoo!カテゴリ、Yahoo!検索、Yahoo!知恵袋、Yahoo!検索ランキング、Yahoo!ラボ等の企画・設計・運用、また産学連携のコーディネートに従事

[参考]

アカデミック・リソース・ガイド株式会社

▶ 創業：

- ▶ 2009年9月30日

▶ 前史：

- ▶ 1998年7月11日創刊のメールマガジン“ACADEMIC RESOURCE GUIDE (ARG)”

▶ ビジョン：

- ▶ 「学問を生かす社会へ」

▶ 体制：

- ▶ 役員5名、社員1名+パートナー1名
- ▶ 20代～50代まで全世代
- ▶ ついにママさん社員誕生

手段としてのリサーチ&デザイン



学問を生かす社会へ

[参考]

これまでの主な図書館プロジェクト

東川町、宮城県、気仙沼市、南三陸町、
富谷市、名取市、須賀川市、埼玉県、柏市、
松戸市、東京都港区、東京都板橋区、武蔵野市、
静岡県、長野県、黒部市、富山市、石川県、掛川市、
浜松市、大阪市、松原市、和歌山市、瀬戸内市、智頭町、
境港市、西ノ島町、津山市、山口市、土佐町、福智町、
日出町、別府市、長崎県・大村市、佐賀県、指宿市、沖縄県、
沖縄市、恩納村、久米島町

<PR>

『未来の図書館、はじめませんか？』ほか

- ▶ 岡本真・森旭彦共著
- ▶ 2014年11月刊行
- ▶ 青弓社
- ▶ 2000円＋税



学问を生かす社会へ

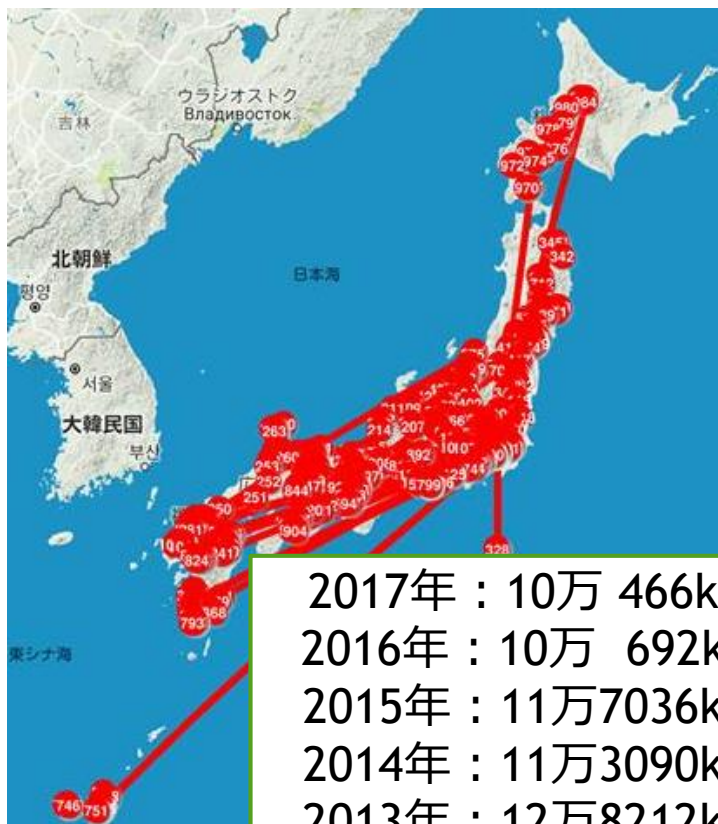
<PR>

『ライブラリー・リソース・ガイド (LRG) 』

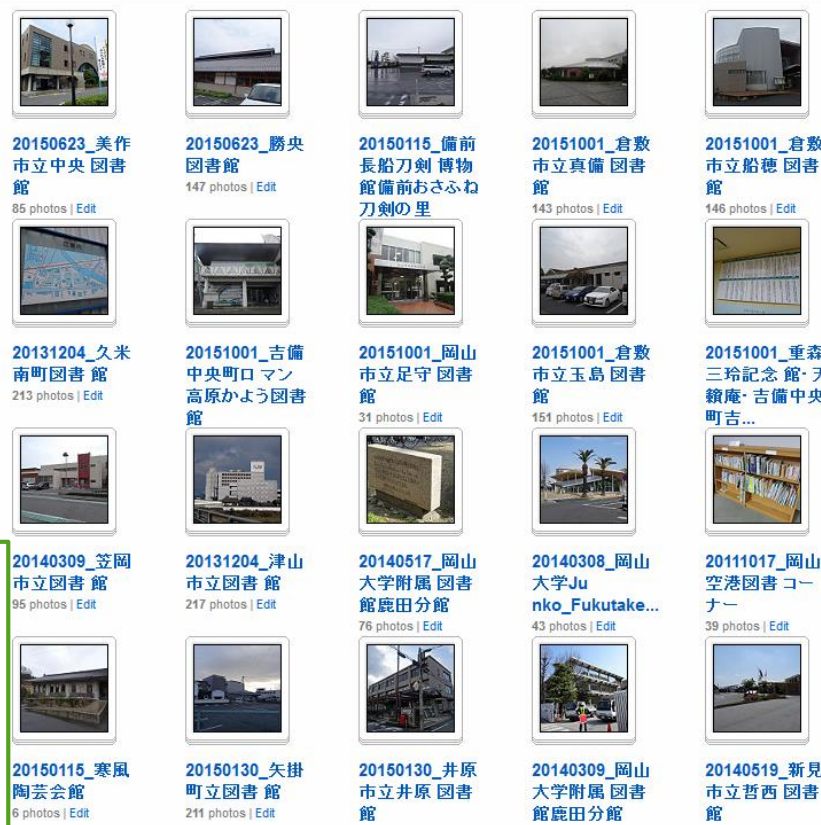
- ▶ 発行：アカデミック・リソース・ガイド株式会社
- ▶ 年4回発行（季刊）
- ▶ ISSN：2187-4115
- ▶ 定価：2,700円（税込）
- ▶ 特別寄稿と特集



[参考] 足で見て回った2000施設 －年間10万キロ超の旅



2017年：10万 466km
2016年：10万 692km
2015年：11万7036km
2014年：11万3090km
2013年：12万8212km
2012年：11万9819km





「公民連携」とは何か
ー全国各地の状況整理から

学問を生かす社会へ

「公民連携」とは何か －最初に抑えておきたいこと

「民」 = 「民間企業」ではない

「民」 = 「市民」である

「法人市民」 ∈ 「市民」である



「公民連携」の歴史的展開 －脈々たる「協働」の歴史

- ▶ 民設民営の図書館の存在（特に戦前）
 - ▶ 代表的存在としての淡山翁記念報徳図書館（大日本報徳社、掛川市）
 - ▶ 1928年～1952年まで存続、その後、掛川町立図書館に転換
 - ▶ 国内各地に残る創立100年超図書館に見える私設図書館の痕跡
- ▶ 主体的な市民による図書館整備の牽引（1970年代～）
 - ▶ 都市部における住民請願に基づく図書館整備（例：横浜市金沢図書館）
 - ▶ 行政と市民が一体となった図書館整備（例：伊万里市民図書館）
- ▶ 友の会／サポーターの展開と「まちライブラリー」の勃興（現在）
 - ▶ 象徴的な事例としての岡崎市立中央図書館事件（Librahack事件）（2010年）
 - ▶ 個人有志主体の「図書館」活動（「文庫」活動との連続性と断続性）
 - ▶ 背景にある図書館の役割変化（「交流」と「創造」への拡張）

「公民連携」の歴史的展開 －他方の流れとしての「指定管理者制度」

- ▶ 指定管理者制度の登場と導入（2003年～）
 - ▶ 山中湖情報創造館での導入（2004年～）
 - ▶ 大手事業者の本格参入（2005年～）
- ▶ 基本的には拡大を続ける指定管理図書館
 - ▶ 日本図書館協会の継続的調査
 - ▶ 自治体数では10%代前半
 - ▶ 図書館数では10%代後半
 - ▶ 指定管理を取りやめるケースの存在
- ▶ 多様化する指定管理の担い手
 - ▶ 3セク財団、一般社団、NPO、学校法人
 - ▶ 稀少事例としての指宿市、津島市
 - ▶ ブラックビジネス化する指定管理の現場

表2 市区町村立図書館（自治体数）					
	特別区	政令市	市	町村	合計
2016年度までに導入	13	9	153	56	231
2017年度に導入予定	2	0	11	1	14
2018年度以降に導入を予定					26

表3 市区町村立図書館（図書館数）					
	特別区	政令市	市	町村	合計
2016年度までに導入	112	58	299	61	530
2017年度に導入予定	7	4	20	1	32

表4 2016年度までに導入した館の指定管理者の性格（図書館数）					
	特別区	政令市	市	町村	合計
図書館数	112	58	299	61	530
指定管理者の性格	① 民間企業	111	46	244	427
	② NPO	0	1	22	37
	③ 公社財団	0	11	26	54
	④ その他	1	0	7	12

その他：未定を含む

図書館における指定管理者制度の導入等について2017年調査（報告）

「公民連携」の歴史的展開 －新潮流としての「真っ当な」PPPと「亜流」のPPP

- ▶ 圧倒的存在としてのオガールプロジェクト
 - ▶ 図書館をまちづくりのエンジンと位置づけた地域再生の取り組み
 - ▶ 「まち」にひらき、「まち」とつながる図書館の姿
 - ▶ リスクを負って事業に挑む「民」の事業体の存在
- ▶ 「亜流」「それじゃない」PPPの流行
 - ▶ 形だけ集客エンジン化した「図書館」
 - ▶ 似て非なる自称「PPP」の横行と乗せられてしまう自治体の存在
 - ▶ ビジネス上のキャッチフレーズ化しつつある「PPP」



図書館における「公民連携」

ー小諸市の将来に向けて

学問を生かす社会へ

指定管理者制度における「公民連携」の課題 －3点に渡る課題

指定管理費検討のビジネス的な甘さ（行政）



受託者側のビジネスモデルの甘さ（受託）



イコールパートナーシップの不在（双方）

公民連携による市民営図書館を実現するための方策 －真っ当な「PPP」の実現

行政



管理・運営モデルの精査
(例：「管理」と「運営」の峻別)



市民



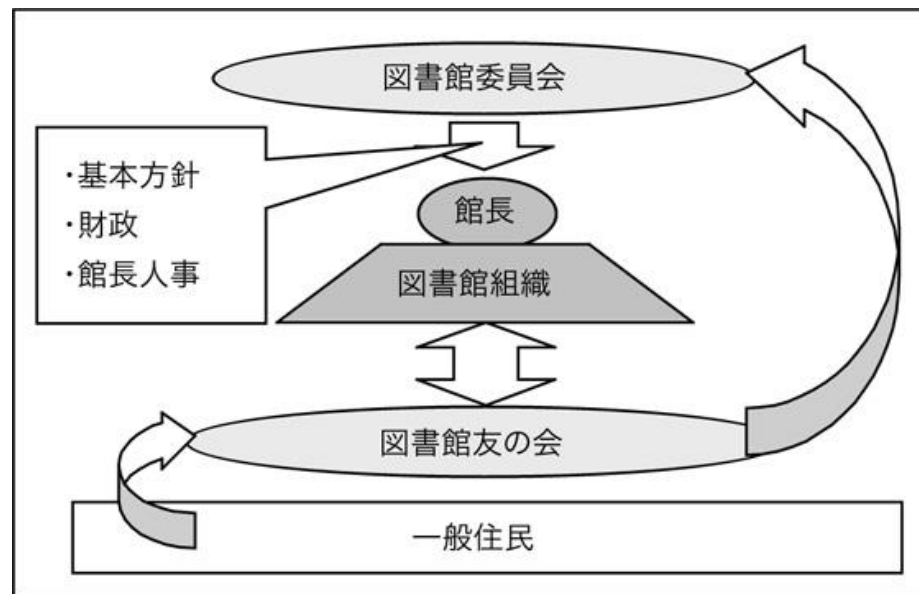
自立的ビジネスモデルの確立
(例：自主事業の確立)



イコールパートナーシップの契約と履行

公民連携による市民営図書館を実現するための方策 －真剣に検討すべき「図書館委員会」の可能性

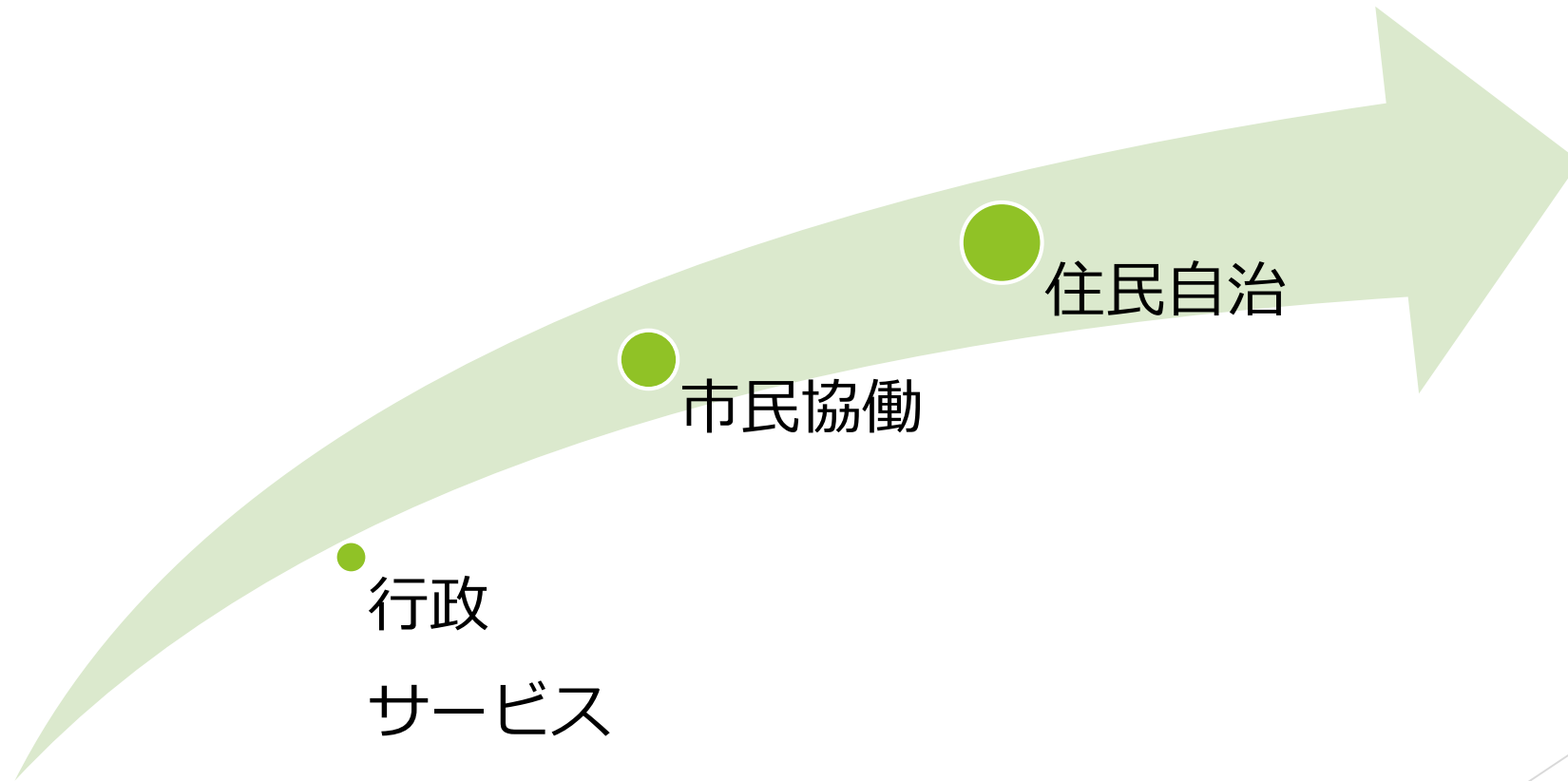
- ▶ アメリカにおける「図書館委員会」(Library Board)の可能性
- ▶ 政策・財政・人事を掌握する自治組織(≡行政委員会)
- ▶ 柏市でのARG社提案



山本順一「図書館の運営形態」(No.40『米国の図書館事情』(2007-2006年度 国立国会図書館調査研究報告書)

<http://current.ndl.go.jp/node/14424>

総論：迫られる「自治」の再生 －「協働」では生ぬるい時代への突入



総論：迫られる「自治」の再生 －「協働」では生ぬるい時代への突入

行政サービスが保障するものはなにか

市民協働で補い合うものはなにか

住民自治で豊かにするものはなにか

総論：「行政」「協働」「自治」のバランス －最大の前提としてのオープンガバメント

1. 情報の透明性・公開性

2. 市民の参画

3. 行政と市民の協業

図書館における公民連携

ー全国の事例から

信州発・これからの図書館フォーラム第16弾 in 小諸「“わたしたちの図書館”をめざして」
第1回「今だからこそ、図書館運営のあり方を考えよう
ー全国の事例を知り、ジブンゴトに置きかえてみるー」

2018年6月10日（日）

於・小諸市市民交流センター

岡本真

（アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役/プロデューサー）